

2026  
1



Ando Gallery関連  
こどものイベント

## 「新春！たてものツアー！2026」

- 開催日時：2026年1月31日(土) 13:30～15:00
- 参加者：こども21名、保護者22名
- 対象：小学生～中学生
- 会場：アトリエ2、美術館屋内外

■概要  
建築担当の中谷（なかや）学芸員がナビゲーターとなり、安藤忠雄（あんどう・ただお）さんが設計した当館の建物を持つ魅力や、館内外の彫刻作品を紹介するツアー。最後にツアーの報告会も行いました。

### ■オリエンテーション

今回の活動は、こどもだけが参加できる"たてものツアー！"です。こどもたちは保護者と離れ、ツアーコンダクター（でしょうか!?笑）の中谷学芸員と共に美術館の屋内外を探訪しました。ツアーはまず、兵庫県立美術館についての説明から。美術館の延床面積はなんとサッカー場4つ分、小学校の教室だと450室分にもなるそうです。また、美術館の建物はコンクリートやガラス、石といったいろいろな素材でできていることも教えてもらいました。美術館には絵や彫刻など多くの作品が展示されていますが、中谷学芸員の話聞いて、美術館そのものも建築家の安藤忠雄さんが工夫を凝らして設計した「作品」であることがわかりました。



学芸員の説明

### ◇参加者の感想（※原文をそのまま紹介）

- ・円形かいだんが、じしんがあったときにひがいをへらすために、じ面にくっついていないことがすごいなおもいました。（小3）
- ・茶色のまるが三つつながっているさくひんが、どうやってたっているのかが、おもしろかったです。（小4）
- ・たてものものを、もっとくわしく知りたいとおもいました。（小3）
- ・スライドで子どもの楽しそうな様子が見られました。次に来るときは展示会の時間と、建物を楽しむ時間とを考えています！（保護者）
- ・ツアーで聞いたことを説明したいようで、このあと連れていってくれるようです。楽しかったみたいで参加してよかったです。（保護者）

### ■たてものツアー（円形階段→Ando Gallery→青りんご）

ツアーの始まりは、美術館の人気スポット「円形階段」からです。その美しい形状に写真を撮るお客様も多いのですが、中谷学芸員が向かったのは地下駐車場につながる階下。「円形階段の壁の下に隙間があるのが見えますか？実は壁は地面にくっついていてではなく、二階から吊り下げられています」と中谷学芸員。目の前にあるコンクリート製の重そうな壁が吊り下がっていると聞き、こどもたちは驚きの表情を浮かべました。円形階段の次に向かったのはAndo Galleryです。そこには、安藤忠雄さんが設計した当館や「本の森」の建築模型があり、こどもたちも興味津々。手で触れてみたい気持ちをぐっところえながら、中谷学芸員の話に耳を傾けていました。



円形階段にて。確かに隙間がある！



どうやって固定されているの？

### ■たてものツアー（青木野枝作品→大階段→円形テラス→屋外彫刻）

ツアーの後半は、風のデッキから。普段見過ごしがちな場所ですが、実は2025年1月に青木野枝（あおき・のえ）さんの大きな作品が設置されました。三つの円でできているこの作品が転がることなく、どのように地面に固定されているのか、こどもたちは関心を寄せていました。また、当館の正面に位置する大階段を降りると、ヤノベケンジさんの巨大な女の子の彫刻《サンシスター》がこどもたちを迎えてくれました。中谷学芸員が、大階段の裏側には秘密の空間があると紹介すると、その空間の役割や雰囲気などについてこどもたちからたくさんの質問がありました。先ほどの青木野枝さんの作品をはじめ、当館の屋外には新宮晋（しんぐう・すすむ）さんの風で動く立体作品や、ヘンリー・ムーアさんの彫刻なども展示されています。ツアーの最後には、それらの屋外彫刻を楽しみながらアトリエへと戻りました。

### ■ツアーほうこくかい

活動の最後に、保護者の方にもご参加いただき「ツアーほうこくかい」を行いました。部屋の前方にツアー中に撮影した写真をスライド投影し、全員で写真を見ながらツアーを振り返りました。円形階段が映し出されると、こどもたちは「地震のために、壁は地面にくっついていない」と説明したり、「この作品は最近油をつけたので、風でよく回るようになった」と美術館スタッフ顔負けの解説を披露してくれる場面もあり、保護者の方々もその発表を楽しそうに聞いておられました。

今回のツアーでは、実際に建物を見ながら説明を聞くことで、そこにはどこされた様々な工夫に気づき、楽しみながら学びを深めることができました。最後には、新春イベントということで、こどもたちにカプセルトイを回してもらい、カプセルの中に入っているエドゥケーターお手製の「おみくじ」をおみやげとして持ち帰ってもらいました。さて、今年の運勢はどうだったかな！？（小田美沙紀/エドゥケーター）



全員でばしゃり！

### □担当学芸員からのコメント

定期開催に向けてこれまで実験的にこなってきた学芸員による建築ツアー、今回はこども限定イベントということで、私自身もたくさんの学びがありました。特に大前提、“建築”を“作品”として“見る”とはいったい！？当たり前にも身の回りにある建物を、よく観察して、実際に触れて、考える機会は、絵画や彫刻を見慣れているこどもたちにとっても新鮮だったようです。イベント終了後には、自らガイドになってお母さんを連れ、再度たてものツアーをしてくれた子も！これを機に、芸術のひとつとして“建築”という世界にも興味を持っていただけたら嬉しいです。（中谷学芸員）